

第4期中期目標期間2年目事業年度における実績報告書（大分県立看護科学大学）

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

（1）教育

ア 教育の内容及び到達目標

- ・学部教育では、全学年で行ったDP（ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与方針）評価や、文部科学省の看護学教育モデル・コア・カリキュラム（令和6年度改訂版）に関する調査結果等をもとに教育改善に向けたカリキュラムの改定を実施した。
- ・大学院教育では、単位取得退学とその後の学位申請制度を導入した。また、国公立大学として初となるDNP（Doctor of Nursing Practice）コースの入試（募集2名）を12月に行い、7名が受験して3名が合格した。

イ 教育の質の向上

- ・DP評価の改善点の検討、入学前教育の促進を行った。
- ・実習記録デジタルシステムの導入に向けて、全ての実習施設に了承を得て、一部の実習で実施、試行を行った。
- ・学生による授業アンケートの結果を、学部・大学院ともに年度末にホームページに公開した。
- ・大学院教育では、研究指導体制を見直し、指導教員を准教授以上にした。

ウ 学生等への支援

- ・令和8年度に開始する「国際看護学修プログラム」における4年次生の海外研修にかかる費用の一部を支援する本学独自の奨学金制度を創設した。
- ・学生支援体制および障がいを持つ学生への合理的配慮の支援体制を整備した。

（2）研究

ア 研究の方向

- ・教員向け科研費研修や科研費申請時のピアレビュー及び外部講師による申請書添削指導を実施した。

イ 研究の実施体制

- ・アニュアルミーティングによる助成対象研究の成果報告会及び意見交換会を対面で実施し、次期応募の促進を図った。

(3) 社会貢献

ア 看護職者の確保・育成

- ・1年次生対象の大学ナビ講座に、県福祉保健部医療政策課の保健師、県内中小規模病院看護部長を講師として招いて、県内就職促進の取り組みを実施した。

イ 大分県民の健康増進

- ・11月に発生した佐賀関火災の際、本学の大学院生4名が避難所が設置された当初から、病院の医師とともに3日間の支援活動を行い、行政および県内医療施設の看護職から高く評価を受けた。
- ・社会的関心の高い「災害時に家族に寄り添う看護師の支援活動」をテーマに公開講座を開講した。
- ・県民の健康に関わる県内11のイベントの運営等に学生延べ233名が参加した。

ウ 国際交流の推進

- ・看護国際フォーラムはDNPに関するテーマで、国内講師2名と海外講師1名によるオンライン講演を実施した。

エ 産学官連携の充実強化

- ・学術相談取扱規程の制定を行い、企業からの問い合わせに対応しやすい体制を整備した。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 運営体制

- ・社会の状況や本学の特徴を踏まえつつ、将来に見据えたわかりやすいミッション・ビジョン・バリュー(MVV)を公表した。

(2) 人事・労務管理の適正化

- ・法人固有事務局職員1名を4月に採用したほか、事務局職員へ業績評価制度を年2回実施した。

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 自己収入及び外部資金の獲得

- ・本学の知的財産アドバイザーを講師とした科研費研修を実施し、すべての科研費申請書がピアレビューを受けた。

(2) 経費の効率化

- ・漏水箇所を特定するため、内部調査を実施し、中水槽の漏水の補修対応を実施した。

(3) 資産の適正管理及び有効活用

- ・県施設整備事業費補助金を活用し、施設を計画的に維持管理するために、保全工事（受変電設備改修第1期工事等）を実施した。

Ⅳ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 内部質保証の推進

- ・内部質保証推進会議を適宜開催し、中期計画における評価指標の進捗管理を行った。

(2) 情報公開や情報発信の推進

- ・広報紙を発行するとともに、ホームページやSNSでの情報発信を積極的に実施した。

Ⅴ その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置

(1) 大学の危機管理

- ・4月初旬に緊急連絡網の整備及び危機管理対策本部会議を開催した。
- ・事故・災害等危機的状況の対応タスクグループを設置し、学内のリスク調査等により危機管理マニュアルを改定するとともに、備蓄物資の拡充を行った。
- ・教職員及び学生による防災訓練及び安否確認訓練を実施した。

(2) 人権尊重の推進

- ・ハラスメント防止及び人権に関する研修会を対面開催し、オンデマンド形式での配信も行った。

(3) 情報管理の徹底

- ・情報セキュリティ講習会を学生及び教職員向けにそれぞれ実施するとともに、学内メールでの注意喚起を行った。

○直近3年間の卒業者の進路状況（別添1）

(別添 1)

卒業生・修了生の進路状況（大分県立看護科学大学）

(単位：人)

年 度		令和 5 年度						令和 6 年度						令和 7 年度					
区 分		学 部		大学院				学 部		大学院				学 部		大学院			
				修士課程		博士課程				修士課程		博士課程				修士課程		博士課程	
出身地	県内	55	74.3%	13	44.8%	3	100.0%	58	68.2%	18	64.3%	2	50.0%	57	67.1%	22	71.0%	4	100.0%
	県外	19	25.7%	16	55.2%	0	0.0%	27	31.8%	10	35.7%	2	50.0%	28	32.9%	9	29.0%	0	0.0%
	計	74		29		3		85		28		4		85		31		4	
就 職	県内	30	(51.7%)	10	(37.0%)	2	(66.7%)	41	(58.6%)	17	(65.4%)	2	(50.0%)	31	(47.7%)	18	(64.3%)	4	(100.0%)
	県外	28	(48.3%)	17	(63.0%)	1	(33.3%)	29	(41.4%)	9	(34.6%)	2	(50.0%)	34	(52.3%)	10	(35.7%)	0	(0.0%)
	未定	1		1		0		1		1		0		2		3		0	
	計	59	79.7%	28	96.6%	3	100.0%	71	83.5%	27	96.4%	4	100.0%	67	78.8%	31	100.0%	4	100.0%
進 学	計	15	20.3%	1	3.4%	0	0.0%	14	16.5%	1	3.6%	0	0.0%	18	21.2%	0	0.0%	0	0.0%

第4期中期目標期間2年目事業年度における実績報告書 ※指標（大分県立看護科学大学）

番号	評価指標	区分	目標値	目標値の考え方 (目標値の設定理由)	実績			特記事項		
					第4期					
					R6	R7	平均			
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置										
【1】学部教育：看護学の発展・地域医療に貢献できる人材の養成										
【1】-1	4年間の看護基礎教育を通した、ディプロマ・ポリシー（以下DP）能力の修得状況	成果目標	DPに関するアンケートにおいて4年次生の80%以上がDPの各項目の能力が身につけていると回答（第4期中毎年度）	最低限達成すべきと考える数値を目標として設定	80%	94%	-			
【1】-2	学部教育及び養護教諭養成課程のカリキュラムの評価及び改善	行動目標	各年1回以上（第4期中毎年度）	看護学の発展・地域医療に貢献できる人材の養成を行うため、教育研究委員会にて評価及び改善について検討を行う。	1回	5回	-	学部教育	・R6：学部教育の改善として卒業研究の研究室配置方法を変更 ・R7：DP評価の改善点の検討、入学前教育の促進	
					1回	2回	-	養護教諭養成課程	・R6：4年生の科目の見直しを試行的に実施し、改善可能かを検討 ・R7：履修学生のカルテをもとに、学士過程との並立可能な教職課程のあり方の見直し	
【1】-3	地域思考の育成を目指す予防的家庭訪問実習における目標達成状況	成果目標	学年別実習目標に関して9割以上の学生が評価A以上を達成（第4期中毎年度）	過去の実績を考慮し、最低限達成すべきと考える数値を目標として設定	97%	98%	-			
【2】大学院教育：看護職のリーダーとなりうる人材を大分県に供給										
【2】-1	保健師国家試験、助産師国家試験、NP資格認定試験の合格率	成果目標	100%（第4期中毎年度）	第3期はすべての年で100%を達成しており、引き続き達成できるように取り組んでいく。	100%	86%	-	保健師	・不合格者数/受験者数…R7：1名/7名	
				第3期はほとんどの年で100%を達成しており、引き続き達成できるように取り組んでいく。	100%	100%	-	助産師		
				第3期はすべての年で100%を達成しており、引き続き達成できるように取り組んでいく。	100%	100%	-	NP資格認定試験		
【2】-2	博士号取得率	成果目標	在学年限までに博士号を取得した者の割合80%以上（第4期中の通算）	過去の実績を考慮し、最低限達成すべきと考える数値を目標として設定	83%	80%	82%	○以下の見直しを行うため、関係規程を改正（R6） ・研究指導の質を高めるために指導体制を見直し、次年度の新入生から主・副指導教員を准教授以上に変更 ・退学後3年以内の博士申請を可能とした		
【3】教育環境の整備：教育のDX推進、情報セキュリティの確保										
【3】-1	講義・実習・演習に必要なDX・ICTの教育設備の充実	行動目標	実習記録デジタルシステムの導入（第4期中）	教育機能を強化し、より効果的で魅力ある教育を推進するため、教育のDXを進める。	実習施設へ事前説明・一部の実習で試行	一部の実習で実施・試行	-	・R6：看護学実習記録のデジタル化試行について、1年次生、2年次生の実習施設10施設へ説明し、9施設の下承を得た。また、一部の実習でシステムの試行を行った。 ・R7：実習施設10施設すべての下承を得た上で、一部の実習でシステムの実施及び試行を行った。		
【3】-2	関連サーバやWi-Fi等の計画外の長時間停止	成果目標	0回（第4期中毎年度）	学内の情報環境を整える。	0回	1回	-	・R7：学内WiFiの計画外の長時間停止で2日間は断続的に不安定だったが、大きな影響はなかった。		

第4期中期目標期間2年目事業年度における実績報告書 ※指標（大分県立看護科学大学）

番号	評価指標	区分	目標値	目標値の考え方 (目標値の設定理由)	実績			特記事項
					第4期			
					R6	R7	平均	
【4】教学マネジメント、IRの推進：教学マネジメント及びIRの推進、教育の成果を学外発信								
【4】-1	教学マネジメントのアセスメントポリシーに基づくアセスメントチェックリストによる評価の実施	行動目標	年1回以上 (第4期中毎年度)	教育効果を適切に評価し、学生の学習や授業の改善を行っていくため。	1回	1回	-	・評価結果を学内で共有するため、学内研修会を3月に開催
【4】-2	教務システムを用いたDP評価の実施及び学生の到達度の分析	行動目標	年1回以上 (第4期中毎年度)	教育効果を適切に評価し、学生の学習や授業の改善を行っていくため。	1回	1回	-	・DP評価時の学生の自由記述を分析し、結果を学内研修会で共有
【5】授業評価と教育向上：授業評価の実施、教育の質の向上に向けた研修・情報提供								
【5】-1	授業評価の実施	行動目標	全学生に対して年1回以上実施 (第4期中毎年度)	教育効果を高め、より良い教育に繋げるため。	1回	1回	-	・各授業においてアンケートを実施し、各授業担当教員に周知するとともに評価結果を年度末にホームページで公開
【5】-2	教育に関する研修の実施	行動目標	年1回以上 (第4期中毎年度)	教育の質向上のため。	1回	1回	-	・R6：レポート課題における生成AIの考え方・対応方法（講師：ライティングスーパーバイザー） ・R7：教育・指導の場で考えるハラスメント（講師：名古屋大学ハラスメント相談センター相談員〔臨床心理士の資格有〕）
		成果目標	受講率80%以上 (第4期中毎年度)	過去の実績を考慮し、第3期の平均値を上回るよう目標値を設定	100%	98%	-	
【6】アドミッション・ポリシー（AP）にかなった優秀な学生の確保：本学の教育理念、看護・看護学の魅力・将来性を社会や高校生へ周知、APにかなった優秀な学生の確保								
【6】-1	オープンキャンパス参加者満足度	成果目標	参加者アンケートにおける満足度が5段階評価のうち上位2項目の割合が80%以上 (第4期中毎年度)	最低限達成すべきと考える数値を目標として設定	100%	100%	-	・本学学生がツアーガイド(案内係)となり、参加した高校生等と交流
【6】-2	進学相談会の実施回数	成果目標	年20回以上 (第4期中毎年度)	過去の実績を考慮し、第3期の平均値を目標値として設定	38回	36回	-	・R6：業者企画への参加25回、本学開催13回（うちミニキャンパスツアー7回） ・R7：業者企画への参加29回、本学開催7回（うちミニキャンパスツアー3回）
【6】-3	学部の入試出願倍率	成果目標	4.0倍以上 (第4期中毎年度)	直近実績や少子化や県内大学の看護学部新設などの社会的要因なども考慮し、最低限達成すべきと考える数値を目標として設定	5.6倍	3.4倍	-	・R6：学校推薦型選抜2.8倍、一般選抜前期4.0倍、一般選抜後期20.3倍 ・R7：学校推薦型選抜2.5倍、一般選抜前期2.6倍、一般選抜後期9.6倍 ・R6の出願倍率高騰により出願を控える動きが生じたことから、R7後期の県外出願倍率が大幅に減少した。

第4期中期目標期間2年目事業年度における実績報告書 ※指標（大分県立看護科学大学）

番号	評価指標	区分	目標値	目標値の考え方 (目標値の設定理由)	実績			特記事項
					第4期			
					R6	R7	平均	
【7】学習支援：自己学習能力を高めるための学習支援、看護実践力習得のための支援、学習支援により看護師国家試験合格率100%を目指す								
【7】-1	学生がDP等の自己評価を活用し学習に取り組む	成果目標	自己評価の実施率9割以上 (第4期中毎年度)	最低限達成すべきと考える数値を目標として設定	9割	9割	-	・年度末に学生がDPアンケート実施
【7】-2	卒業時看護技術習得状況	成果目標	厚生労働省が示す看護技術71項目について、8割以上の学生が臨地または学内で実施もしくは見学する。 (第4期中毎年度)	最低限達成すべきと考える数値を目標として設定	81%	87%	-	
【7】-3	看護師国家試験合格率	成果目標	100% (第4期中毎年度)	第3期は100%を達成している年が過半であり、引き続き達成できるように取り組んでいく。	99%	98%	-	・不合格者数/受験者数…R6：1名/85名、R7：2名/85名
【8】学生生活支援：学生の心理面・身体面の健康管理に向けた支援								
【8】-1	学生の健康診断受診率	成果目標	100% (第4期中毎年度)	第3期はほとんどの年で100%を達成しており、引き続き達成できるように取り組んでいく。	100%	100%	-	
【8】-2	学生の満足度	成果目標	学生生活実態調査において4.0点以上/5.0点と評価した学生が70%以上 (第4期中毎年度)	過去の実績を考慮し、第3期の平均値を上回るよう目標値を設定	92%	100%	-	
【9】進路支援：ガイダンス等学生の進路支援								
【9】-1	就職ガイダンスの満足度	成果目標	参加した学生へのアンケート5段階評価のうち上位2項目の割合が90%以上 (第4期中毎年度)	過去の実績を考慮し、最低限達成すべきと考える数値を目標として設定	94%	93%	-	
【9】-2	学部卒業生の県内就職率	成果目標	55%以上 (第4期中毎年度)	過去の実績を考慮し、第3期の平均値を上回るよう目標値を設定	59%	48%	-	・R6：3年次生へ県内施設の情報提供等を行うスタートアップ講座を新たに実施 ・R7：進学希望者の増加と県外就職希望者の増加により目標未達成
【9】-3	学部卒業生の進路決定率	成果目標	100% (第4期中毎年度)	100%を目指して取り組む。	99%	98%	-	・R6：1名が就職しなかったため ・R7：国家試験不合格者2名が進路未定となったため

第4期中期目標期間2年目事業年度における実績報告書 ※指標（大分県立看護科学大学）

番号	評価指標	区分	目標値	目標値の考え方 (目標値の設定理由)	実績			特記事項
					第4期			
					R6	R7	平均	
【10】経済支援：授業料減免、各種奨学金周知								
【10】-1	授業料納付率	成果目標	100% (第4期中毎年度)	第3期は100%を達成している年が過半であり、引き続き達成できるように取り組んでいく。	100%	100%	-	
【11】研究の方向：基礎的研究だけでなく地域課題を解決する研究を実施、企業や行政、非営利団体等と連携し研究結果の社会実装化を推進								
【11】-1	科研費新規申請者における採択割合	成果目標	25%以上 (第4期中毎年度)	過去の実績を考慮し、第3期の平均値を上回る目標値を設定。	27%	35%	-	・採択数/申請数…R6：8件/30件、R7：10件/29件
【11】-2	共同研究／受託研究に関する研修会における参加者の理解度	成果目標	参加者アンケートにおいて5段階評価のうち上位2項目の割合が80%以上 (第4期中毎年度)	過去の実績を考慮し、最低限達成すべきと考える数値を目標として設定	96%	100%	-	・本学の知的財産アドバイザーを講師とした研修会を7月に実施
【11】-3	地域の課題解決支援に係わる研究や事業を行う	成果目標	年2件以上 (第4期中毎年度)	過去の実績を考慮し、第3期の平均値を上回る目標値を設定。	14件	16件	-	・医療関係、高齢者関係、子育て関係、保健関係、障がい者関係
【12】研究の実施体制：本学が推進する研究への優先的な研究資金や人材等の配分・配置、研究助成獲得、論文投稿、学会での発表等のサポート								
【12】-1	学内競争的研究費の予算確保	成果目標	3,700,000円以上 (第4期中毎年度)	過去の実績を考慮し、最低限達成すべきと考える数値を目標として設定	3,700千円	3,700千円	-	・予算額3,700千円のうちR6申請額2,719千円、R7申請額3,644千円
【12】-2	年1本以上論文掲載された教員の割合	成果目標	50%以上 (第4期中毎年度)	過去の実績を考慮し、第3期の平均値を上回る目標値を設定	54%	52%	-	・論文掲載者数/常勤教員数…R6：29名/54名、R7：26名/54名
【13】看護職者の確保・育成：県内就職先の拡大、卒業生・修了生へのフォローアップ、看護職者の現任教育								
【13】-1	学部卒業生の県内就職率	成果目標	55%以上（第4期中毎年度）※再掲	過去の実績を考慮し、第3期の平均値を上回る目標値を設定	59%	48%	-	・R6：3年次生へ県内施設の情報提供等を行うスタートアップ講座を新たに実施 ・R7：進学希望者の増加と県外就職希望者の増加により目標未達成
【13】-2	県内の病院等に本学の教員を派遣して看護研究の指導を行う看護研究支援における施設満足度	成果目標	アンケートにおいて4段階評価のうち上位2項目の割合が90%以上 (第4期中毎年度)	過去の実績を考慮し、最低限達成すべきと考える数値を目標として設定	100%	100%	-	
【13】-3	卒業生・修了生のフォローアップ、継続教育に関する取り組みの実施	行動目標	年1回以上 (第4期中毎年度)	看護基礎教育の上に積み上げられる生涯教育につながるよう、継続教育に取り組む。	2回	1回	-	・R6：ホームカミングデイ（11月）及び看護研究交流会（7月）の実施 ・R7：公開セミナー（11月）を新たに実施

第4期中期目標期間2年目事業年度における実績報告書 ※指標（大分県立看護科学大学）

番号	評価指標	区分	目標値	目標値の考え方 (目標値の設定理由)	実績			特記事項
					第4期			
					R6	R7	平均	
【14】大分県民の健康増進：県民の健康増進に資する活動を実施、県や市町村の保健医療福祉政策に係る諸活動への教員派遣								
【14】-1	県民の健康増進に資する公開講座の参加者満足度	成果目標	参加者アンケートにおいて5段階評価のうち、上位2項目の割合が80%以上 (第4期中毎年度)	過去の実績を考慮し、最低限達成すべきと考える数値を目標として設定	94%	100%	-	・R6：「医療的ケア児とその家族を取り巻く社会」 ・R7：「災害時に家族に寄り添う看護師の支援活動」
【14】-2	県民の健康増進に資する活動の実施回数	成果目標	年5回以上 (第4期中毎年度)	県内の機関から依頼に応じて行う活動が多いため、コロナ禍前の水準ではなく、最低限達成すべきと考える数値を目標として設定	15回	11回	-	・学生参加者延べ人数…R6：238名、R7：233名
【14】-3	大分県及び県内市町村の保健医療福祉政策に係る諸活動への教員派遣件数	成果目標	年50件以上 (第4期中毎年度)	過去の実績を考慮し、最低限達成すべきと考える数値を目標として設定	54件	58件	-	・大分県特定行為研修推進連絡会（R6設置）等
【15】国際交流の促進：姉妹校との教員及び学生間の国際交流の促進、国際的視野育成のための看護国際フォーラムや国際交流の実施								
【15】-1	姉妹校・MOU締結校との対面／オンライン交流イベントの開催	行動目標	年2回以上 (第4期中毎年度)	姉妹校等との定期的な対面及びオンラインでの交流を進め、教員及び学生間の国際交流を促進する。	3回	2回	-	・交流した姉妹校等：ウルサン大学校医科大学（韓国）、インハ大学校医科大学（韓国）、ムハマディア大学（インドネシア）
		成果目標	学生参加総数40名以上 (第4期中毎年度)	過去の実績を考慮し、最低限達成すべきと考える数値を目標として設定	85名	89名	-	
【15】-2	看護国際フォーラム参加者満足度	成果目標	参加者アンケートにおいて5段階評価のうち上位2項目の割合が80%以上 (第4期中毎年度)	過去の実績を考慮し、最低限達成すべきと考える数値を目標として設定	99%	94%	-	・R6：「診療看護師(NP)と拓く看護の未来 -地域におけるシームレスな取り組み-」 ・R7：「求められる変革をどう実現するか -エビデンスを現場に実装するDNPへの期待-」
【16】海外危機管理体制の整備：海外危機管理マニュアル及び危機管理体制の整備								
【16】-1	海外危機管理マニュアル内容点検の実施	行動目標	年1回以上 (第4期中毎年度)	世界情勢等の変化に応じ、海外に派遣される学生及び教職員の安全確保に努める。	1回	1回	-	・NPO法人 海外留学生安全対策協議会（JCSOS）とマニュアルの改善点を協議
【17】産学官連携の推進：県内企業や行政との共同研究・受託研究の推進、企業や行政と連携した地域に貢献できる研究を担える人材の育成、高等教育機関・地域・産業界の協働による地域課題解決の推進								
【17】-1	大学ホームページの研究者シーズ集掲載ページへのアクセス件数	成果目標	年1,200件以上 (第4期中毎年度)	過去の実績を考慮し、最低限達成すべきと考える数値を目標として設定	945件	2,565件	-	・R6が目標に到達しなかったため、R7は掲載ページにアクセスできるバナーを貼り付けたリーフレットの配布、大学公式ホームページやSNSでのお知らせ、Web広告を活用した周知を積極的に行い、目標に到達できた。
【17】-2	産学官連携推進チーム員等の異業種交流会への参加	行動目標	年1回以上 (第4期中毎年度)	企業や行政と連携して地域に貢献できる研究を担える人材を育成する。	1回	3回	-	・東九州メディカルバレー構想推進大会、大分県医療ロボット・機器産業協議会、産学官ネットワーク交流会等に参加

第4期中期目標期間2年目事業年度における実績報告書 ※指標（大分県立看護科学大学）

番号	評価指標	区分	目標値	目標値の考え方 (目標値の設定理由)	実績			特記事項
					第4期			
					R6	R7	平均	
Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置								
【18】ミッション、ビジョン、バリューの明確化及び社会へ公表								
【18】-1	ミッション、ビジョン、バリュー（MVV）を検討・公表	行動目標	ミッション、ビジョン、バリュー（MVV）を検討し、公表する。 (第4期中)	本学の使命や目指すべき姿について、学内及び社会にわかりやすく伝える。	検討	公表済み	-	・R6に学内にタスクグループを設置し、検討会を7回開催し、R7年4月に公表済み
【19】地域に開かれた大学運営：透明性の高い地域に開かれた大学運営、県内自治体の各種審議会や委員会等への積極的な派遣								
【19】-1	ステークホルダーとの対話の機会の創出	行動目標	年5回以上 (第4期中毎年度)	学外関係者の意見を積極的に取り入れ、透明性の高い、地域に開かれた大学運営を推進する。	19回	20回	-	・予防的家族訪問実習運営会議、看護交流研究会、NP実習施設合同会議、中小規模病院等看護管理者支援事業、実習指導者・看護教員交流会等に参加
【19】-2	県内の自治体の各種審議会や委員会、国や学協会の委員への教員派遣件数	成果目標	年100件以上 (第4期中毎年度)	過去の実績を考慮し、最低限達成すべきと考える数値を目標として設定	101件	105件	-	
【20】事務処理の合理化、事務局の組織体制及び事務処理体制の改善：事務処理方法、組織の統合や管理運営体制及び事務組織のあり方の評価・見直し								
【20】-1	紙で行っている事務の電子化	行動目標	年1件以上の導入 (第4期年平均)	事務処理の合理化・簡素化を図る。	1件	1件	1件	・R6：年末調整業務の電子化、R7：給与明細の電子化
【21】優秀な人材確保と適正な人員配置：業務内容・人員の定期的な評価及び適正な人事配置								
【21】-1	教員評価の実施	行動目標	年1回以上 (第4期中毎年度)	業務内容・人員を定期的に評価し、適正な人事配置を行う。	1回	1回	-	・教員評価の結果に基づいて、毎年度教員の昇任を実施
【21】-2	法人固有職員の面談の実施	行動目標	年1回以上 (第4期中毎年度)	業務内容・人員を定期的に評価し、適正な人事配置を行う。	3回	3回	-	・期首（4月）、期中（9月）、期末（2月）
【22】人材の育成：学内外の研修制度の積極的な活用による教職員の能力向上、教職員の博士号取得促進								
【22】-1	FD/SD研修実施数及び参加率	行動目標	年4回以上実施 (第4期中毎年度)	教職員の能力の向上を図る。	6回	6回	-	・研修内容：教育関係、人権関係、学生関係、教員からの要望、科研費（教員全体と別に初任者対象も実施）
		成果目標	参加率70%以上 (第4期中毎年度)	過去の実績を考慮し、第3期の平均値を上回る目標値を設定	99%	93%	-	
【22】-2	法人固有職員の採用	行動目標	法人固有職員を2名以上採用する。 (第4期中)	事務職員において県からの派遣職員と法人固有職員の割合を5：5とする。	採用手続実施	1名採用	1名採用	・R7.4.1付け1名採用
【22】-3	5年以上勤務する常勤教員の博士号取得率	成果目標	80%以上 (第4期中毎年度)	過去の実績を考慮し、最低限達成すべきと考える数値を目標として設定	68%	74%	-	・博士号取得教員数/5年以上勤務する教員数・・・R6：26名/38名、R7：28名/38名 ・大学院博士課程に在学中の教員もあり、引き続き学長面談や研究室内での働きかけにより、取得を促す。取得者が着実に増えており、早期の達成を目指す。

第4期中期目標期間2年目事業年度における実績報告書 ※指標（大分県立看護科学大学）

番号	評価指標	区分	目標値	目標値の考え方 (目標値の設定理由)	実績			特記事項
					第4期			
					R6	R7	平均	
【23】教職員の評価：教職員の評価制度の継続・発展								
【23】-1	教員評価の方法の改善	行動目標	教員評価の方法の改善（第4期中）	業務に対する教職員の意識・意欲及び能力を高めるため、教職員の評価制度について継続して改善・充実を図る。	実施	実施	-	・R6：評価方法等について他大学と比較・検討した結果、現行のスコア型の評価を継続するほか、新たに授業参観や授業アンケート等を評価に反映することを検討することとなった。 ・R7：授業参観における加点方式評価を新たに導入
【23】-2	法人固有職員に対する業績評価の導入	行動目標	法人固有職員の業績評価を導入（第4期中）	業務に対する教職員の意識・意欲及び能力を高める。	導入	実施	-	・県からの派遣職員と同様の評価制度
		行動目標	年2回実施する。（第4期中毎年度）	業務に対する教職員の意識・意欲及び能力を高める。	2回	2回	-	・前期（9月）、後期（2月）
【24】健康の保持増進：職員が自らの健康課題に自主的に取り組めるよう支援								
【24】-1	健康診断受診率	成果目標	100% （第4期中毎年度）	第3期はすべての年で100%を達成しており、引き続き達成できるように取り組んでいく。	100%	100%	-	
【24】-2	健康診断受診後の要精密検査受診率	成果目標	100% （第4期中毎年度）	100%を目指して取り組む。	100%	100%	-	
Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置								
【25】自己収入の確保：きめ細かな債権管理の実施による貸倒損失及び徴収不能引き当金繰入金ゼロ、施設等の貸付による自己収入の確保								
【25】-1	徴収不能引当金繰入額	成果目標	0円 （第4期中の通算）	R2以降は達成できており、継続して達成できるよう取り組む。	0円	0円	0円	
【25】-2	財産貸付料収入額	成果目標	対前期比増 （第3期年平均と第4期年平均の比較）	第3期の実績を上回るように取り組む。	960,600円	483,800円	722,200円	第3期年平均：216,600円・・・① 第4期年平均：722,200円（R6・R7実績）・・・② ②－①＝505,600円
【26】外部資金の獲得：外部資金の獲得の促進								
【26】-1	科研費受入額	成果目標	対前期比増 （第3期年平均と第4期年平均の比較）	第3期の実績を上回るように取り組む。	41,535千円	29,757千円	35,646千円	第3期年平均：33,727千円・・・① 第4期年平均：35,646千円（R6・R7実績）・・・② ②－①＝1,919千円
【26】-2	科研費補助金等の外部研究費の獲得者割合	成果目標	教員の50%以上 （第4期中毎年度）	第3期の実績を考慮し、同等の水準を維持できるように取り組む。	65%	59%	-	・獲得者数/常勤教員数…R6：35名/54名、R7：32名/54名

第4期中期目標期間2年目事業年度における実績報告書 ※指標（大分県立看護科学大学）

番号	評価指標	区分	目標値	目標値の考え方 (目標値の設定理由)	実績			特記事項
					第4期			
					R6	R7	平均	
【27】経費の効率化：コスト意識の涵養及び事務の効率化、光熱水等の節減								
【27】-1	水道光熱使用量	成果目標	対前期比減 (第3期年平均と第4期年平均の比較)	第3期の実績を下回るように取り組む。	6,833㎡	7,519㎡	7,176㎡	水道 第3期年平均：4,652㎡ … ① 第4期年平均：7,176㎡ (R6・R7実績) … ② ②－①＝2,524㎡ (増) ・地中など見えない部分の漏水の可能性が高く、今後調査の実施を検討
		成果目標	対前期比減 (第3期年平均と第4期年平均の比較)	第3期の実績を下回るように取り組む。	841,595kwh	817,947kwh	829,771kwh	電気 第3期年平均：874,045kwh … ① 第4期年平均：829,771kwh (R6・R7実績) … ② ②－①＝▲44,274kwh
		成果目標	対前期比減 (第3期年平均と第4期年平均の比較)	第3期の実績を下回るように取り組む。	96,661㎡	85,514㎡	91,088㎡	ガス 第3期年平均：83,575㎡ … ① 第4期年平均：91,088㎡ (R6・R7実績) … ② ②－①＝7,513㎡ (増) ・R6、R7ともに6～8月の異常気象に加え、コロナ禍明けのサークル活動の活発化などにより、冷暖房の使用が増加したためと考えられる。 ・R7実績 (85,514㎡) については、年間通じたデマンド監視の取り組みにより、第3期年平均 (83,575,㎡) とほぼ同程度となった。
【28】資産の適正管理：適正かつ効率的な資産管理運用、土地・建物等の計画的かつ適正な維持管理								
【28】-1	県施設整備事業費補助金等を活用した計画的な予防保全工事の実施	行動目標	県施設整備事業費補助金等を活用した計画的な予防保全工事を実施	建物等の計画的かつ適正な維持管理を行う。	実施	実施	-	・R6：管理棟送風機更新工事 ・R7：看護大電話交換設備改修工事、看護大受変電設備改修第1期工事
【29】大学施設・設備の有効活用：施設等の開放による地域社会への貢献								
【29】-1	財産貸付件数	成果目標	対前期比増 (第3期年平均と第4期年平均の比較)	第3期の実績を上回るように取り組む。	372件	318件	345件	第3期年平均：223件 … ① 第4期年平均：345件 (R6・R7実績) … ② ②－①＝122件
【30】知的財産の公開と活用：知的財産の積極的公開・活用								
【30】-1	本学看護研究交流センターが発行する査読付き学術誌「看護科学研究」の論文掲載数	成果目標	年7本以上 (第4期中毎年度)	第3期の実績を考慮し、同等の水準を維持できるように取り組む。	10本	17本	-	
Ⅳ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置								
【31】内部保証システムの強化：教育の状況についての継続的な点検・評価、外部者による検証の実施及びその結果の公開								
【31】-1	中期計画の取組・改善状況について点検と教育・研究・地域貢献活動への反映	行動目標	内部質保証推進会議の年1回以上開催 (第4期中毎年度)	教育の目標を達成するために、教育の状況について継続的に点検・評価し、定期的に改善・向上に取り組む。	4回	4回	-	・第4期中期計画の進行管理関係 5月（法人評価委員会実績報告を確認）、6月（前年度の実績確認）、12月（当該年度の具体策実施状況確認）、3月（評価指標の達成見込み及び翌年度の具体策を確認）
		行動目標	年報の作成 (第4期中毎年度)	教育の目標を達成するために、教育の状況について継続的に点検・評価し、定期的に改善・向上に取り組む。	作成済	作成済	-	・6月に公開
【31】-2	大学機関別認証評価の受審	行動目標	1回 (第4期中)	教育の目標を達成するために、外部者による検証を実施し、改善・向上に取り組む。	-	-	-	・R10受審予定

第4期中期目標期間2年目事業年度における実績報告書 ※指標（大分県立看護科学大学）

番号	評価指標	区分	目標値	目標値の考え方 (目標値の設定理由)	実績			特記事項
					第4期			
					R6	R7	平均	
【32】情報公開：法人情報や大学の教育研究活動の成果等のHP上での公開								
【32】-1	法人情報（財務諸表、議事録、年報、中期目標・中期計画等）の公開（第4期中期中毎年度）	行動目標	法人情報（財務諸表、議事録、年報、中期目標・中期計画等）の公開（第4期中毎年度）	法人運営の透明性を高め、県民に対する責任説明を果たす。	実施	実施	-	・公開予定の法人情報をすべて学内ウェブに公開
【33】-1	SNSでの情報発信件数	成果目標	年100件以上（第4期中毎年度）	R4年度にInstagramを開設し情報発信を強化したことから、第3期の平均値を上回る目標値を設定	100件	240件	-	・FacebookおよびInstagramの発信件数
【33】情報発信：各種イベントや学生の活動等の発信								
【33】-2	広報紙の発行	行動目標	年2回以上（第4期中毎年度）	大学の教育研究活動・社会貢献の成果及び運営の状況に関する情報を積極的に発信する。	2回	2回	-	・7月と12月に発行
V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置								
【34】施設・設備の整備と活用：省エネやユニバーサルデザインに配慮した施設・設備の更新、定期的な点検・診断及び適正な時期の補修・補強対策								
【34】-1	照明器具のLED化の推進	行動目標	照明器具のLED化を計画的に推進する。	省エネ仕様やユニバーサルデザインに配慮した、施設整備を行う。	実施	実施	-	・R6：外灯（水銀灯）、R7：図書館デスクライト LED化完了
【34】-2	県施設整備事業費補助金等を活用した計画的な予防保全工事の実施 ※再掲	行動目標	県施設整備事業費補助金等を活用した計画的な予防保全工事を実施 ※再掲	建物等の計画的かつ適正な維持管理を行う。	実施	実施	-	・R6：管理棟送風機更新工事 ・R7：看護大電話交換設備改修工事、看護大受変電設備改修第1期工事
【35】事故や犯罪及び災害による被害の発生の防止：学内点検・事故防止講習会等の実施、全学での防災訓練等の実施								
【35】-1	安否確認訓練の実施	行動目標	年1回以上（第4期中毎年度）	教職員及び学生への危機管理意識の向上及び事故・災害時の安全確保を図る。	1回	1回	-	・R7から防災訓練の実施を4月に変更し、訓練後に全教職員及び全学生を対象に実施
【35】-2	学生を対象とした交通安全講話等の実施	行動目標	年2回以上（第4期中毎年度）	学生への安全・衛生の意識向上を図る。	4回	5回	-	・交通安全講話、消費者トラブル防止研修、海外渡航に関する研修、デートDV研修、薬物健康教育研修等を実施

第4期中期目標期間2年目事業年度における実績報告書 ※指標（大分県立看護科学大学）

番号	評価指標	区分	目標値	目標値の考え方 (目標値の設定理由)	実績			特記事項
					第4期			
					R6	R7	平均	
【36】安全管理体制及び危機管理体制の充実：危機管理体制の点検・評価・見直し								
【36】-1	危機管理体制の点検	行動目標	年1回以上 (第4期中毎年度)	学内における事故や犯罪及び災害による被害の発生を未然に防止し、安全・安心な教育研究環境を実現する。	2回	1回	-	・4月当初に緊急連絡網を整備し、危機管理対策本部を開催
【37】人権尊重・SDG s の促進：人権意識の高揚と各種ハラスメントの防止、ダイバーシティの推進、SDG s の実現及びその活動の公開								
【37】-1	ハラスメント研修会の実施	行動目標	年1回以上 (第4期中毎年度)	各種ハラスメントの防止に努める。	1回	1回	-	・外部講師によるハラスメントの基礎知識講習及び本学規程の説明を8月に実施 ・外部講師の講習内容…R6：セクハラ、R7：ハラスメントと人権尊重社会
【37】-2	人権研修会の実施	行動目標	年1回以上 (第4期中毎年度)	人権意識の向上を図る。	1回	1回	-	・大分県人権教育・啓発推進協議会に所属する人権啓発講師の方による研修を実施 ・R6：インターネットでの人権侵害、R7：部落差別問題
【38】情報管理の徹底、情報セキュリティの強化：情報セキュリティが適切に機能するように評価・改善・改良を実施								
【38】-1	情報セキュリティ講習会の実施	行動目標	年1回 (第4期中毎年度)	教職員のセキュリティ意識や情報リテラシーの向上を図る。	1回	1回	-	・学生向け及び教職員向けにそれぞれ7月に実施
【38】-2	情報漏洩等（重大事象）の発生回数	成果目標	0件（第4期中）	過去の実績を考慮し、引き続き達成できるように取り組む。	0件	0件	0件	

第 4 期中期目標期間 2 年目事業年度における実績報告書（大分県立看護科学大学）

予算、収支計画及び資金計画			
※別紙「令和6年度財務諸表および決算報告書」とおり			
Ⅶ 短期借入金の限度額（1億円）			
運営費交付金の受入時期と資金需要との期間差及び事故の発生等により緊急に必要な対策費として借り入れることを想定する。	実績		特記事項
	R 6	R7	
	なし	なし	
Ⅷ 出資等に係る不要財産又は出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産がある場合には、当該財産の処分に関する計画			
中期計画：なし	実績		特記事項
	R 6	R7	
	なし	なし	
Ⅸ Ⅷに記載する財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画			
中期計画：なし	実績		特記事項
	R 6	R7	
	なし	なし	
Ⅹ 剰余金の使途			
決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。	実績		特記事項
	R 6	R7	
	○情報ネットワーク運用保守業務や教務システム保守業務、教育研究設備等の整備に充てた。 情報ネットワーク運用保守 8,986千円 ドラフトチャンバー更新 7,979千円 教務システム保守・改修 5,324千円 実習センター無線LAN整備 2,376千円 トイレ洋式化工事 他 9,977千円 (合計34,642千円)	○情報ネットワーク運用保守業務や教務システム保守業務、教育研究設備等の整備に充てた。 情報ネットワーク運用保守 9,295千円 教務システム保守・改修 8,811千円 プロジェクター等機器等更新 7,304千円 サーバ関係更新 2,980千円 職員宿舍給水ポンプユニット更新工事 他 33,505千円 (合計61,894千円)	
Ⅺ 大分県が設立する地方独立行政法人の業務運営並びに財務及び会計に関する規則（平成18年大分県規則第12号）で定める事項			
1 施設及び設備に関する計画			
※安全面・保全面における計画的な修繕を行うとともに、実験動物施設などの研究設備の改修について、設置者である県と協議しながら推進する。	実績		特記事項
	R 6	R7	
	・県施設整備事業費補助金（10/10） （1）空調設備外改修工事 契約額 32,422千円（R5契約締結済） 支払額 32,422 千円 （2）送風機更新工事 契約額 1,832 千円 支払額 1,832 千円 （3）電気設備改修工事設計委託 契約額 2,783 千円 支払額 0 千円（R7精算予定）	・県施設整備事業費補助金（10/10） （1）電気設備改修工事設計委託 契約額 2,783 千円（R6契約締結済） 支払額 2,783 千円 （2）講義棟外屋上防水改修工事設計委託 契約額 3,604 千円 支払額 3,604 千円 （3）電話交換設備改修工事 契約額 3,696 千円 支払額 3,696 千円 （4）受変電設備改修第1期工事 契約額 28,270 千円 支払額 28,270 千円	

第4期中期目標期間2年目事業年度における実績報告書（大分県立看護科学大学）

人事に関する計画

※「Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置」の「（２） 人事・労務管理の適正化」※評価指標(21)-①～(24)-②記載のとおり。

（参考）

項目		令和6年度	令和7年度	
（１）常勤職員数		65人	63人	
（２）任期付職員数		0人	0人	
（３）その他	①人件費総額（退職手当を除）	659,943,661円	682,327,654円	※退職手当額96,833,605円
	②経常収益に対する人件費の割合	67.6%	65.6%	
	③外部資金により手当した人件費を除いた人件費	659,943,661円	682,327,654円	
	④外部資金を除いた経常収益に対する上記③の割合	71.6%	66.5%	
	⑤標準的な常勤職員の過当たりの勤務時間として規定される時間数	38時間45分	38時間45分	

3 法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることができる積立金の処分に関する計画

積立金については、次の事業の財源に充てる。

ア 教育研究の質の向上を図るための設備の充実

イ その他教育、研究に係る業務、組織運営の改善及びその付帯業務

実績		特記事項
R6	R7	
○情報ネットワーク運用保守業務や教務システム保守業務、教育研究設備等の整備に充てた。 情報ネットワーク運用保守 8,986千円 ドラフトチャンバー更新 7,979千円 教務システム保守・改修 5,324千円 実習センター無線LAN整備 2,376千円 トイレ洋式化工事 他 9,977千円 （合計34,642千円）	○情報ネットワーク運用保守業務や教務システム保守業務、教育研究設備等の整備に充てた。 情報ネットワーク運用保守 9,295千円 教務システム保守・改修 8,811千円 プロジェクター等機器等更新 7,304千円 サーバ関係更新 2,980千円 職員宿舍給水ポンプユニット更新工事 他 33,505千円 （合計61,894千円）	

4 その他法人の業務運営に関し必要な事項

中期計画：なし

実績		特記事項
R6	R7	
なし		